



山岸 慶祐さんご家族  
鯨井 義之さん



内田 雄司さん  
小澤 滯奈さん

熊谷地域の豊かな恵みと、  
経験を重ねた熟練の  
菓子職人の手技が結晶し、  
現代に受け継がれる



## 「100年フード」五家宝。





文化庁は、地域に息づく食文化を「100年フード」として認定し、普及啓発を図る制度を創設しました。2022年3月3日、認定された131件が発表され、その一つに熊谷銘菓「五家宝」が含まれたことは大きな朗報となりました。

100年フードは、江戸時代以前から伝わる「伝統」、明治・大正から続く「近代」、昭和以降に生まれ今後100年の継承を目指す「未来」の3部門に分類されます。

「五家宝」は認定された食文化の中で、特筆する価値を有する15件に与えられる「有識者特別賞」を受賞しました。この特別賞には、五家宝のほか、きりたんぼ(秋田県)・小田原蒲鉾(神奈川県)・ます寿司(富山県)・大阪の鉄板粉モン文化(お好み焼・たこ焼)(大阪府)・ぼたん鍋(兵庫県)・出雲そば(島根県)・カツオのたたき(高知県)・ラフテー(沖縄県)など名だたる食文化が含まれ、その中で菓子は五家宝だけが選ばれました。

独特の食感と、素朴な風味に懐かしさがあふれる郷土菓子「五家宝」の製法は、もち米をもちについてから薄くのばし、細かく砕いて煎り、あられ状にしたものを生地(タネ)にします。その後、生地ときな粉(黄粉)の層を包みながら円筒状にし、より板(のし板)で長く延ばし、表面にきな粉をまぶすという工程を経て完成します。

「五家宝」という名称の語源には諸説あります。江戸時代後期の狂歌師・蜀山人は、随筆に「五荷棒」



五家宝の製造風景(花堤)

## 豊かな耕作地帯が育んだ 「五家宝」を継承する

と記しています。古くは「五箇宝」「五荷棒」などと表記されたほか、茨城県五霞村と群馬県五箇村のように製造地名が由来となった説があります。上州では江戸時代から、米・大豆を原料とする干菓子が製造され、「一荷棒」と称し、その5倍大の規模として「五荷棒」と称した説が残ります。



また、熊谷宿の老舗、水戸屋4代目の水野市三郎が、五穀(米・麦・豆など)を使用し、「五穀は家の宝である」として、五穀豊穰と家内安全を祈念し、「五家宝」の商標を広めました。

熊谷地域では、豊かな湧水と川の流れの恩恵を受けた稲作と麦作の農村・耕作地帯が広く所在していたことで、五家宝の原料となる穀物の供給が可能であったほか、中山道熊谷宿での交通や荒川・利根川の舟運により、五家宝の需要と供給の構図が北武蔵全体に拡大していたと推測されます。

明治時代半ば以降、五家宝は全国的な知名度を誇るようになりました。明治16年(1883)に高崎線が開通すると、水戸屋は、「熊谷停車場特設販売品」として五家宝の駅売りを開始し、人気も飛躍的に全国拡大しました。その後、アジア諸国や欧米からも注文を受けた記録が残されています。

戦後、五家宝は埼玉を代表する銘菓としてブランド化し、最盛期の1960年代には市内に30軒以上の店舗が営業していました。ノーベル賞文学者の川端康成も熊谷の五家宝を愛好したことで知られています。現在、熊谷市内では約10軒が五家宝の製造を続け、熊谷土産の代表格として多くの人々を楽しませています。

熊谷地域の豊かな耕作地帯と、試行錯誤を重ねた菓子職人の手技が結晶し、現代に受け継がれる五家宝。貴重な郷土の遺産として確立することが求められています。

執筆：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

3年ぶりにスポーツ文化公園で開催！

# 熊谷市産業祭

- 1 今年の産業祭は熊谷スポーツ文化公園で令和元年以来の開催となります。熊谷産の野菜や郷土料理の販売を行います。
- 2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部イベントを中止しての実施となりますが、入場時の手指の消毒や検温のご協力をよろしく申し上げます。



## 産業祭のご案内

**とき** 11月19(土) ※1日開催  
午前10時～午後3時

**ところ** 熊谷スポーツ文化公園内  
(にぎわい広場及び陸上競技場)

## 農産物共進会中止のお知らせ

例年、産業祭で開催されてきた農産物共進会は中止となりました。農産物共進会を楽しみにされていた皆様、出品を予定されていた皆様には、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。



◆農業振興課(妻沼庁舎)  
☎048-588-9987(直通)

新鮮!

おいしい!

## 熊谷産農産物のトップセールスを行います



小林市長と吉田JAくまがや組合長による  
トップセールスを行います。

- 日時** 11月11日(金) 午後3時から  
**場所** 熊谷駅改札外コンコース  
**内容** ① 熊谷産農産物等の販売  
② JAくまがや農産物直売所のPR  
③ 第18回熊谷市産業祭のPR

以前は、東京都内で、県外の消費者へ向けて熊谷産農産物のPRを行っていましたが、本年度は、「市民の皆様へ熊谷産の新鮮でおいしい農産物をあらためて知ってもらいたい」という思いをこめて、熊谷駅改札外コンコースにて、小林市長と吉田JAくまがや組合長による熊谷産農産物のトップセールスを行います。

当日は、熊谷産農産物を購入できるJAくまがや農産物直売所のPRも行います。

また、このトップセールスは、11月19日(土)に3年ぶりに開催される第18回熊谷市産業祭のイベントとしても位置づけており、産業祭のPRも行います。

トップセールスを、熊谷産農産物の魅力を市民の皆様知ってもらう機会とし、今後の地産地消拡大へつなげていきたいと思っております。

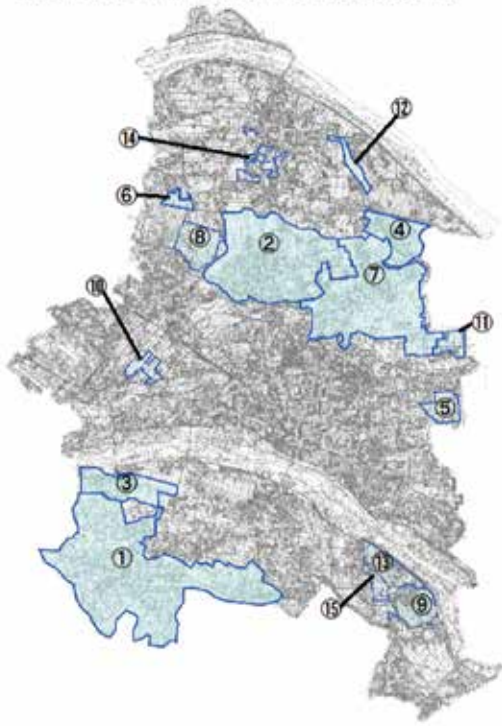
◆農業振興課 ☎048-588-9987

★第18回産業祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や内容を変更する場合があります。

第3回

農地中間管理事業を知ろう！

熊谷市農地中間管理事業実施区域



今回は農地中間管理事業の熊谷市内の実施状況についてご紹介します。

熊谷市では平成27年度に小原地区から農地中間管理事業を開始しました。初年度の貸借面積44haから開始した本事業は、令和4年4月1日に事業開始となった中曽根地区を含め、市内15地区で実施され貸借面積は592haとなっています。農地中間管理事業は田、畑ともに貸借が可能ですが、農地の集約による効率化が図りやすい田んぼを対象として実施する地区が多くなっています。

- ①小原地区      ②奈良地区      ③上新田・三本地区
- ④秦南部地区   ⑤池上地区      ⑥下増田地区
- ⑦中条地区      ⑧東別府地区   ⑨津田・向谷地区
- ⑩三尻地区      ⑪下川上地区   ⑫善ヶ島地区
- ⑬津田新田・屈戸地区      ⑭弥藤吾地区
- ⑮中曽根地区

注)農地中間管理事業では、統一した貸借条件を設定する必要があるため、地区を設定し、事業を進めています。現在までに15地区で実施しています。

◆農業振興課 048-588-9990

作付確認の現地調査にドローンを活用 業務の効率化へ

熊谷市農業再生協議会では、昨年度から経営所得安定対策等交付金対象圃場の現地調査にドローンを活用しています。

現地調査においては、対象圃場が各地に点在し膨大にあることから、その効率化が課題でした。そこで、株式会社スカイマティクス(東京都中央区)が提供する、ドローンで撮影した画像をAIが自動で作物判別するサービス、「いるはMapper」を現地調査に導入しました。



(イメージ写真)

今年度の夏作の現地調査においては、約2,000haでこのサービスを活用し、AIを使って水稲・牧草の圃場を自動で判別しました。真夏の炎天下に多くの調査員の労力と時間がかかっていた現地調査をドローンの活用で代替することで、現地調査における熱中症防止と業務の効率化を図ることができました。

◆農業振興課 048-588-9987

わら等の焼却防止及び有効活用のお願い わらは、大切な資源です。有効活用しましょう。

わらを焼却すると地力が低下します。わらをすき込むなど堆肥化して還元し、地力を高めましょう。焼却により、市役所には、「洗濯物に臭いがつく」等の苦情が多数寄せられています。その他、煙による視界不良が原因で、交通事故が起きてしまう恐れもあります。焼却を自粛していただき、やむを得ず焼却する場合は、事前に近隣住民へ声がけをするなどの周知をお願いします。

冬の土ぼこり対策について

冬は、強い季節風により農地から土ぼこりが発生しやすくなります。土ぼこり対策としては、緑肥作物等を作付けすることが有効です。緑肥作物等で地面をおおうことで土ぼこりを防ぎましょう。

◆農業振興課 048-588-9990

★農地中間管理事業は、市内15地区で実施され、農地集積・集約化を図っています。

# 星宮地区のコスモスが見ごろを迎えます ～使われていなかった農地の再生化！～



下川上農業資源保全会の皆さん  
1列目右から3番目：堀口勝正会長（※撮影のためマスクは外しています）



このコスモス畑は、もともと使われていなかった遊休農地でした。星宮地区では、荒れ果てた農地に新しい命を吹き込もう！と農家の方々や地域の皆さんにより結成された「下川上農業資源保全会」と「池上活動組織」が中心となって、平成20年度から保全活動が始動しました。これは、国の「多面的機能支払交付金制度」を活用したものです。現在、下川上農業資源保全会は、役員15人、構成員93人で活動しています。コスモス畑は、地権者7名の遊休農地を使用貸借し、約1haのコスモスが見ごろを迎えます。

例年、地域の老人福祉施設のお年寄りや保育園児など、秋の青空の中、色とりどりのコスモスを見ながらのんびりと散策を楽しんでいます。今では、地域の子どもや地域の方々が楽しむことができるイベントが開催されたり、多くの人を楽しませるコスモス畑が見られたりと、地域の皆さんに愛される農地となりました。

※お願い：地域の皆さんに大切に育てられているコスモスです。踏みつけない、ゴミは持ち帰るなどのマナーを守って楽しんでください

## コスモス祭りのご案内

**とき** 10月22日(土)  
午前11:00～

**場所** 星宮公民館付近  
(熊谷市下川上5番地)



来場者に、星宮産小麦を使った手打ちうどん、農業体験で収穫したジャガイモで作ったカレーポテトなどを無料で提供します。

(新型コロナウイルス感染症まん延防止のため規模縮小や中止になる場合があります。)



【6月の農業体験】  
保育園児や小学生などの「ジャガイモ掘り」

## ～高めよう！地域協働の力！多面的機能支払交付金制度とは？～

農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有しており、その利益は広く国民が享受しています。しかしながら、近年の農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。また、共同活動の困難化に伴い、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担の増加も懸念されています。このため、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。また、これにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに担い手農家への農地集積という構造改革を後押しします。

### 多面的機能支払交付金×SDGs

多面的機能支払交付金の活動は、農業・農村の維持・発展を通じて、SDGsの実現に貢献しています。



ため池堤体の草刈り



生物の生息状況の把握

SDGsの目標にどんな活動が関わっているか考えてみましょう！

高めよう 地域協働の力！多面的機能支払交付金のあらし（令和4年4月）（農林水産省）を加工して作成

★多面的機能支払交付金制度を活用し、農村環境の保全活動を市内各地で行っています。

# 肥料・燃油高騰対策について

大里農林振興センター

## 1 肥料高騰対策

### (1) 土づくり、肥料低減対策

緑肥や堆肥等を利用することで、土づくりができるだけでなく、化学肥料の使用量を減らしコストを削減できる場合があります。

「主要農作物施肥基準」および「施肥改善指導マニュアル」を参考に堆肥等を有効に活用してコスト低減を図りましょう。

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/shin-kakushin.html>)

### (2) 土壌診断に基づく施肥の適正化

作付け前に土壌診断を実施し、土壌中の肥料成分の過不足等を把握して過剰な施肥を抑制することにより、減肥や作物の収量安定を図りましょう。

### (3) 堆肥等の活用

施用する堆肥中の肥料分を考慮した施肥管理を行い、肥料使用量を削減しましょう。

### (4) 単肥または低リン酸・カリ肥料の施用

リン酸、カリが土壌診断目標値の上限をオーバーした場合、施肥設計を立てて、単肥や低リン酸・カリ肥料の施用を検討しましょう。

## 2 燃油高騰対策

### (1) 農業機械の省エネルギー対策

農業機械は、定期的な点検により燃費の悪化を防ぎましょう。また、適切なエンジン回転数、作業速度やPTO速度で作業することで、燃費が高まります。

トラクタ点検では、エアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター、潤滑油、タイヤの空気圧等を確認し、必要があれば整備しましょう。

### (2) 農業施設(ハウス)の省エネルギー対策

#### ア 燃焼効率向上のための技術

暖房機や温度センサー点検を行い、燃焼効率低下防止や適正温度管理を行いましょう。

送風ダクト配置や循環扇を利用し、ハウス内温度を均一的に確保しましょう。

#### イ ハウスの保温性向上技術

採光性低下に注意しながら、外張り被覆、内張りカーテン等の多層構造で保温効果を高めましょう。

ハウスの隙間を埋める補修やハウスサイドやカーテン裾を隙間無く閉めることで、保温効果を高めましょう。

#### ウ 省エネのための温度管理等技術

多段サーモを活用し、変温管理による効率的な加温を行いましょう。

◆大里農林振興センター ☎048-526-2210

## 農業女子の紹介

～農業は、自分の判断が結果に直結する。それが面白い～

母の実家が(株)ファーム小澤を営んでいたため、小さいころから農業は身近な存在でした。大学卒業後は、3年間社会人として会社に勤め、農業とは全く違う道を歩んでいました。退職後、特に人生の方向性が決められないままにいた所、祖母の「農業やってみたら～」との声に、(株)ファーム小澤に社員として就農。そこから農業の面白さに目覚めました。入社後、農業をやる傍ら、社会人の経験から社会保険制度や福利厚生に力を注ぎ、日商簿記検定三級を取得した上で、経営面でもサポートしました。また、トラクターなどの農業機械の運転は、「女子は無理じゃないのか?…」という雰囲気でしたが、「乗ってみたい!やってみて!」という気持ちが勝り、大型特殊自動車免許を取得。祖父から乗ってもいいぞとお墨付きをいただき、今では、大型トラクターや軽トラをバリバリ運転します。



(株)ファーム小澤は、米(約22ha)麦(約28ha)、ネギ、ナスなどの露地野菜等と多岐に営農しています。(株)ファーム小澤で社員として経験を積んでいる中で、米麦は作付け面積が広大で、米の上げ下ろしや肥料袋の積み荷など最終的に力仕事が多くを占め、女性では持ち上げる力には及ばないと実感しました。自分でもし営農するならば…と考えた時、施設野菜の営農が選択肢に上がりました。



(株)ファーム小澤  
左：代表取締役 小澤 武司さん



おざわ みおな  
小澤 湊奈さん  
(上中条)

施設野菜の中でも、キュウリは年間2作を作付け出来てリスクを分散できる点、市場価格が比較的安定している点、作付け面積の割に単価が高い点、何より、温度管理、苗や肥料の種類など、自分自身で選択する部分が多く、リスクも伴うが、チャレンジしただけの結果がより出るのが施設野菜のキュウリだと感じました。独立営農したい気持ちが強くなり、新規就農に向けて行政機関である大里農林振興センターや農業振興課へ相談しつつ、知り合いと2人でキュウリを共同作付けしましたが、見事に失敗。この経験から、理論や技術を学ばなければ物事が上手く進まない事が身をもって分かりました。今年4月、埼玉県農業大学校野菜学科施設野菜専攻に入学し、2年間、理論と実践を学んでいます。

施設野菜専攻は主にキュウリ、トマト、イチゴの栽培を学び、新しい知識と経験のひとつひとつが面白いです。技術を競い合う11人の同級生から良い刺激をもらいながら研修に励んでいます。卒論のレポートは、自分の目指す具体的な営農計画について執筆するつもりです。

令和6年3月に埼玉県農業大学校を卒業予定で、その後は、就農の支援制度(認定新規就農者制度、青年等就農資金、次世代交付金など)を活用し、まずは独立して農業経営をする予定です。すでに、熊谷ドーム近くの中条地内に引退した農家の施設ハウスや、トラクターや動力噴霧機を借りられることとなっています。

また、営農を軌道に乗せつつ、将来は農業大学校の研修生を受け入れてみたいです。農業大学校生の中には、キラリと光る技術を持ちながら、営農までは資金面などでハードルが高いと感じている人、新しい技術をやってみたい!という気持ちがあるもののなかなか実践できる場が見つからないという人がいるので、そんな気持ち大切にしつつ、背中をポンと押してあげられるようなワクワクする農園を持ちたいと夢に向かって突き進んでいます。

★稲の収穫期です。稲わらは燃やさず堆肥化を図りましょう。

## よもやま話

## みどりの学校ファーム

農業委員 金井 和夫

中条小学校では、2年生はさつまいもの栽培、5年生は米づくりが地域の農業関係者の支援のもとで行われている。

さつまいも栽培は、農協の支店や地元の農業生産法人が、さつまいもの苗の提供から定植準備、一緒に定植、そして収穫に至るまでのサポートをしている。子供たちは土と触れ合い、収穫の時は大きく育ったさつまいもを夢中になって楽しそうに掘り取っている。そんな子供たちの姿を見て、一緒に作業をする大人たちもうれしい時間を過ごしている。



米づくりでは、地区の農業経営者協議会が、種もみの播種から育苗、田植えを子供たちと一緒にやっている。初めは代かき後の田んぼの中に入るのを躊躇していた子供たちも、慣れてくると泥んこになるのも気にせず楽しみ、稲刈り、そして脱穀までの一連の体験をする。

コロナ禍でなければ、芋をふかし、もち米でお餅つきをして収穫を喜び、味わう。子供たちの笑顔があふれる瞬間である。

田園地帯である中条の子供たちでさえも、田んぼや畑の農業体験をできる機会は少なくなっている。子供たちにとって、楽しい農業体験の時間を作っていくことが大切であると感じている。

自分自身にとっても子供たちと一緒に農作業することが農業を続けている力になっている。

## 農業の終わり方、始め方

北部第1地区 田沼 寛央

私は、妻と2人で麦24ha、米14haを耕作している。田植えの繁忙期には、露地野菜を栽培している50代の男性2~3人を1週間から10日間ほど、状況に応じて雇用している。

そうした農業経営環境の中、私も70歳間近になり、これ以上の規模拡大や継続が難しくなってきた。そろそろ農業の終了を考えるようになってきた。第三者経営継承を検討し、農業大学の学生に打診しているが、手を挙げる人が見つからないのが現状である。自分の希望としては、繁忙期に雇用している方の御息子が農業大学1年生で、我が家にも時々手伝いに来てくれているので、卒業後に継承してもらえると一番良いなと思っているところである。

米麦は、経験を積んで生活が出来るようになるの



に10年位かかると思う。これまで、新規就農する方3人の独立の手伝いをしてきたが、考え方の違いに戸惑いを感じることもある。農業に対する思い入れや夢は大きいのは素晴らしいと思う一方、何でも自分ひとりでやろうとするため、仕事自体を空回りすることが多いのかな、と感じることがある。技術は存分に教えられるので、仕事を早く覚えるためにも、周りの人にもっと頼って欲しいと思う。

最後に、現在の課題点は、後継者がいないこと、地元の太田地区の中間管理事業が遅れている事があげられる。中間管理事業については、4年前に地元への説明会はあったが、ここ数年コロナウイルス感染症対策のため、会議が思うように開催できていない状況である。太田地区は、我が家を含め2軒で地区の70%(約40ha)耕作しているので、中間管理事業に移行するには進めやすい地区であると考えている。農地利用最適化推進委員の任期が終わるまでに、何とか中間管理事業を軌道に乗せたいと考えている。

## 編集後記

虫の声も蝉からコオロギに変わってまいりました。皆様におかれましても、秋の収穫に近づいたと思います。くれぐれも怪我のないよう、安全な作業をしてください。

私も農地利用最適化推進委員になり2年目になりました。これからも、農業委員さん・農地利用最適化推進委員さん共々に努力していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

(編集委員 石井 芳夫)

## 編集委員

委員	長	森田	豊
副委員	長	中嶋	儀臣
委員		福島	清一
委員		石井	芳夫
委員		栗原	一森
委員		吉田	正己
委員		柿沼	憲雄
委員		林	和弥
委員		木部	富次
委員		夏目	亮一